

越中アート大賞 北日本新聞社長賞

総合審査員 長澤 忠徳

「内川情景」(平面) 永森 一則

作品表現し、応募するのは、作者の強い意志ゆえのことである。意志の「意」という文字は、「心」と「音」という文字で成り立っている。あらゆる人々が、自分にしか聞こえない「心の音」を聞き、それをそれぞれ得意な方法で表に現す「表現」の開かれた機会が富山県にあることを、とても嬉しく思う。大賞に選んだ「内川情景」は、芸術作品の域に到達した、動きと静止した状況を瞬時に写し取った見事な写真作品である。

優秀賞 富山県芸術文化協会賞

「sustainable generation」(立体) 土屋 裕

日常にあふれる廃物を使った動きのある彫刻作品。生産と廃棄を繰り返しながら、時を刻む現代へのメッセージだろうか。造形的、色彩的にも自身の試みがなされ、批判だけでなく、希望も感じさせる。

優秀賞 北日本新聞社賞

「sparkle」(平面) ヤマモト マサヒロ

今風のキャラクターが、ギョロリとした目でニヤリとこちらを見つめている。カラフルな色彩も、輪郭線の強い黒も、どこか不穏な気配をかき立てる。そこに争いの絶えない今の世界の不穏を見るのは、穿ち過ぎだろうか。

優秀賞 富山県文化振興財団賞

「初心」(平面) 荒谷 明美

鋭い感性。美しく活かされた余白、ダイナミックな筆捌き、墨色の多彩さ、此所しか考えられない落款の位置。制作に求められる要素が紙面に圧縮され見事な作品に仕上がっている。

優秀賞

「『INAHO』」(平面) 圓戸 智

前回展は版画作品で受賞したが、今回はドローイングでうねるフォルムに繊細さが共存する作品。作者には墨色の豊かな感性が養われており、奥深さが素直に表現されている。見るほどに様々なイメージがかき立てられる。

越中アート未来賞

「生きもの」(立体) 渡邊 楽

実は底部に車輪があり、肉の側面から自ら内部に入りこんで走らせたという。その映像を流せないのは残念だが、動きを含めた表現という新しい試みに驚かされ、肉というマチエールも大振りながらよく表現されている。

平 面

総評

応募総数は減りましたが、堅実な作品が多く見られました。小学生の作品がたくさん出品され、幅広い年齢層の作品展となりました。会場の雰囲気がとても楽しく、越中アートフェスタらしいユニークさを楽しんでいただけたと思います。

奨励賞

「旅人は化身の夢を見る」	伊勢威知郎	「ときめく瞬間」	大久保 肇
「NEXT-祈り-」	笠嶋富士幸	「荘子のことば」	小杉 峰廣
「むぎちゃん」	こみやかぶり	「相向」	財目 尚弥
「僕のもだち」	清水 晶代	「帯雲」	高野 晶葉
「刻の記憶」	武田 清子	「そっくりなわたしたち」	竹田ひより
「ピアノソナタ作品5 7 熱情」	辻 利宏	「ヒマワリ」	富川 幸子
「未来へ」	氷見 安正	「称名瀧」	水島 大樹
「獅子舞」	山田 俊一		

佳作

「はけない靴」	荒井 洋子	「心のフロシキー旅は道連れ-」	池田佐知子
「初冬」	伊藤 徳和	「口からおわらがあふれる人」	大久保りか
「小さな手」	京塚 喜雄	「Dr.S.Tamai」	才田 峰風
「陽光射す水郷」	作農 啓一	「去華就実」	清水 黄玉
「紅葉」	正和 淳子	「立山連峰と高山植物の仲間達」	末永 征士
「パイタリティー」	杉田 一彦	「母と子〜美・アフリカ 4.5〜」	大吉田誠夫乃助
「朔太郎の詩「灰色の道」より」	田邊 竹綾	「命」	谷口 文夫
「蓮華畑の夕暮れに平和を祈る」	寺松 裕史	「凜」	土肥 雅晴
「海中泡」	堂口 光周	「華に舞う」	中島 弘美
「龍」	中屋 寿雨	「Yさんと猫」	中谷 稔
「碧への誘い (No1)」	野中 桂子	「温故知新 歴史から学ぶ」	林原 武夫
「航海のひと休み」	平野 清英	「柿の妙技」	本郷喜代則
「威」	松本 桃風	「遙かなるもの」	丸山 敦子
「春を待つ」	山口 花子	「怒ったドラゴン」	山田 温志
「花と鳥」	山本 晃士	「揺蕩う」	米田 英隆
「秋色」	綿屋 偵以		

立 体

総評

本年も個性が光る作品がたくさん集まりました。卓越した技術に支えられたもの、素材、技法に工夫が凝らされたもの、発想が面白いもの、皆さんののびのびとした創作意欲が感じられました。また、新しい表現に挑戦する若い方の作品についても、未来に向かってますます飛躍されることを期待します。

奨励賞

「円環 朽ちるもの芽吹くもの」	高橋 亜紀子	「collection of trees」	辻 裕美
「そして未来へ」	寺 直彦	「天球の星ぼし」	牧野 収
「You and Me」	与島 雪		

佳作

「想い」	磯野 一美	「(ブレーメンの) 音楽隊」	グアリノアキ
「KO米MEーJ君へ捧ぐー」	酒井 七海	「ネジ組み&トンボ」	澤田 信治
「夏の終わり」	田中 絹子	「柔らかい境涯」	中尾 雅一
「永生 (永遠に滅せず)」	南部 進	「366」	野坂 里子
「共生」	明 順昭	「双魚 二曲屏風」	森下登志美
「紙昆虫」	安吉 将吾	「浮遊」	渡邊伊規子